

節目の今こそ青年交流を大切に 橋本岳 厚生労働副大臣に聞く

中日両国関係の構築と推進に大切な役割を果たし、関係改善の「切り札」として青年交流に期待が集まっていることはすでに述べた。この重要性について日本の若い政治家たちはどのように考え、行動しているのか。厚生労働副大臣で、自民党青年局長を務める橋本岳氏に聞いた。

——現在は自民党青年局長の次長として活躍されていますが、中国の若者との思い出などがあればお教えください。

橋本岳 出身校の慶應義塾大学には何人か中国人留学生がいたのですが、一番仲が良かったリク君と、卒業後就職した三菱総合研究所の中国合同プロジェクトで偶然再会したのが一番の思い出ですね。彼は北京でインターネット関係の会社を興していたので、プロジェクトと一緒にやろうという話にまで発展し、何度か北京に出張したりもしました。お互い専門がITで思考回路がとても似ているせいか、異文化摩擦的なことは感じませんでした。

——若い政治家という立場から、今の中国をどのように見えていますか。

橋本 隣国ですから、今後も協力をしていく必要があると感じています。社会保障などの福祉を例にとると、昨年ジャカルタで行われたASEAN+3（アセアンプラススリー）の社会福祉大臣会合では、私も日本の状況について話してきましたが、中国の

方もプレゼンに参加し、意見交換を行うことができました。貧困、障害、高齢化社会などの社会福祉は両国共通の問題ですから、一致協力してノウハウの交換を行うことは可能でしょう。

逆に両国の大きな問題は、隣国ゆえ摩擦を起こしやすいことと認識しています。摩擦を避けるため、何かの兆しがあった時にできるだけエスカレートしないようお互いが自制していくべきだと思います。

——最近の日本の若者は、中国に対して無関心、もしくは良いイメージを持っていないように感じます。

橋本 それは別に中国に限ったことではなく、米
国や欧州に対しても同じ傾向です。かつて、日本の若者は留学やビジネスで海外を見てこよう、幅広く活躍したいという意欲が強かったようですが、今の若者はいささか内向きです。結果、国外への関心も低くなっているということでしょう。

中国に対しては「摩擦」が加わります。メディアの報道では仲良く交流しているニュースがほとんどなされないのに対し、こと摩擦となると小さなことでも大きく報道される。これが日本人の心の中でクローズアップされているという側面もあると思います。報道されないところでは普通に観光やビジネスが行われているという事実をもっと一般的に認知してもらえば良いのではないかと思います。

——今年は中日国交正常化45周年ですが、この節目

をきっかけに、青年交流を関係改善に役立てることはできないでしょうか。

橋本 自ら相手国に行き、自分の目で見、同世代の人々との会話があるかないかで印象は全く変わってくると思います。これは思考の柔らかい若いうちに経験しておくことがより理想的です。メディアの報道はある側面を一方的に強調しがちで、見る側のイメージも偏ったものになりがちということを認識し、私たち国会議員も含め、自分の目で見、聞き、会話をすることを大切に、青少年が直接交流を行うことが肝要だと思います。

日本と中国は海を挟んで隣り合っているため、「一衣帯水」と例えられる隣国です。近いからこそ間違っ
てぶつかるのはある程度やむを得ず、それを一つ一つ解決していくことで、初めてウインウインの関係を構築していきけるのではないのでしょうか。この45周年の節目に、私たち若者の先輩方が構築した両国関係をより深めていくことができればと思っています。



プロフィール

1974年生まれ。厚生労働省副大臣、自由民主党外交部会長、青年局長次長など。橋本龍太郎元首相を父に持ち、政治に団塊ジュニア世代の声が必要と感じたことから政界入りを果たす。4児の父。(写真・呉文欽／人民中国)